

## 熊本地震被災者アンケートの分析結果に基づく 熊本地震における住民の避難理由と避難期間

- 熊本地震被災者アンケート(熊本県知事公室危機管理防災課実施)の分析
- (参考)熊本地震における地震回数と避難者数の推移
- まとめ

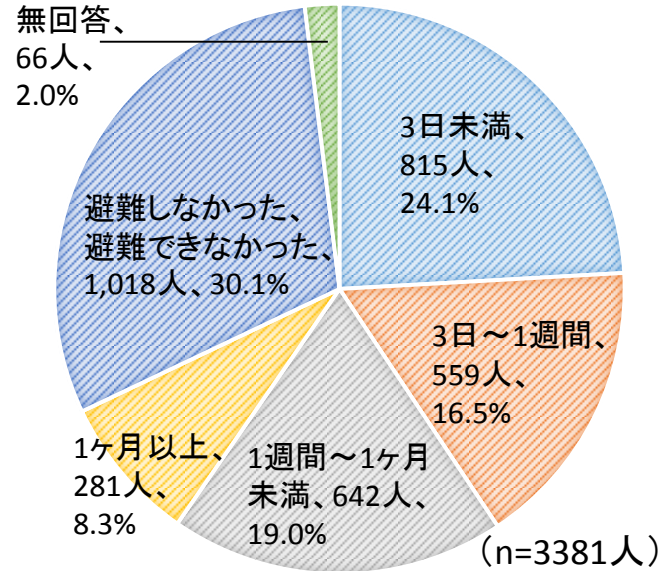
## ○ 平成28年熊本地震後に、熊本県がアンケート調査を実施

実施部署	熊本県知事公室 危機管理防災課
調査目的	防災体制の強化に活かすため、県民の方々が日頃から災害にどのように備え、熊本地震の際にどのように行動したのか、行政に対して、どのようなニーズをお持ちなのかなど、その実態を調査する。
調査方法	くまもと電子申請窓口「よろず申請本舗」を活用したインターネット調査と、郵送調査
調査対象者	インターネット調査 熊本県民(限定なし) 郵送調査 揺れの大きい(震度6強以上を観測した)市町村居住者 (熊本市／宇城市／宇土市／菊池市／合志市／大津町／南阿蘇村／西原村／嘉島町／益城町)
回答標本数	インターネット調査 有効回収 2,204件 郵送調査 有効回収 1,177件(配布数2,000件。回答率58.9%)
調査期間	インターネット調査 平成28年8月3日(水)から9月15日(木) 郵送調査 平成28年8月31日(水)から9月23日(金)
出典	「平成28年熊本地震に関する県民アンケート調査 結果報告書」、 熊本県知事公室 危機管理防災課、平成29年3月13日

# 熊本地震被災者アンケート結果の分析(1) 避難期間

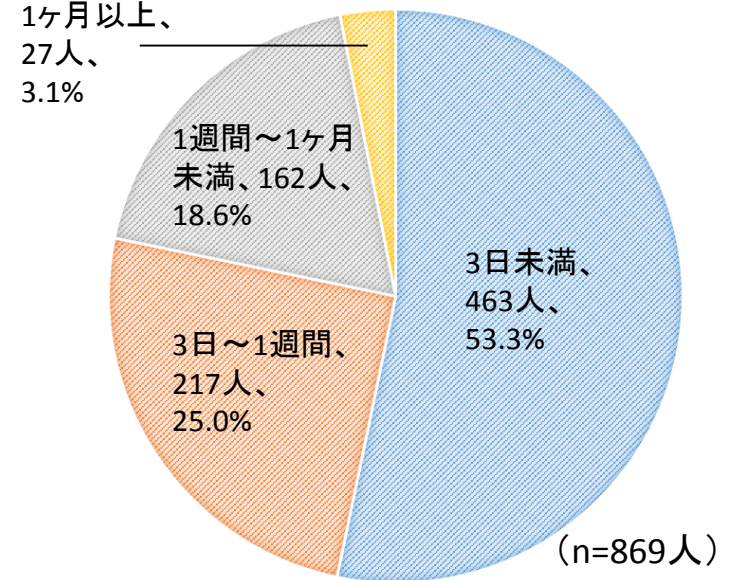
(a) 全回答者を対象とした場合

地震(前震の揺れ)以降、あなたは避難しましたか



- ・ 前震の揺れ以降に避難した人は、全回答者の約7割である。
- ・ 避難期間が1週間以内の人は、全回答者の約4割であり、全避難者の約6割である。

(b) 全避難者から、「自宅建物が壊れ、中で生活することができなかったから」「停電や断水など、自宅で生活するのが不安な状況だったから」と回答した人を除いた場合

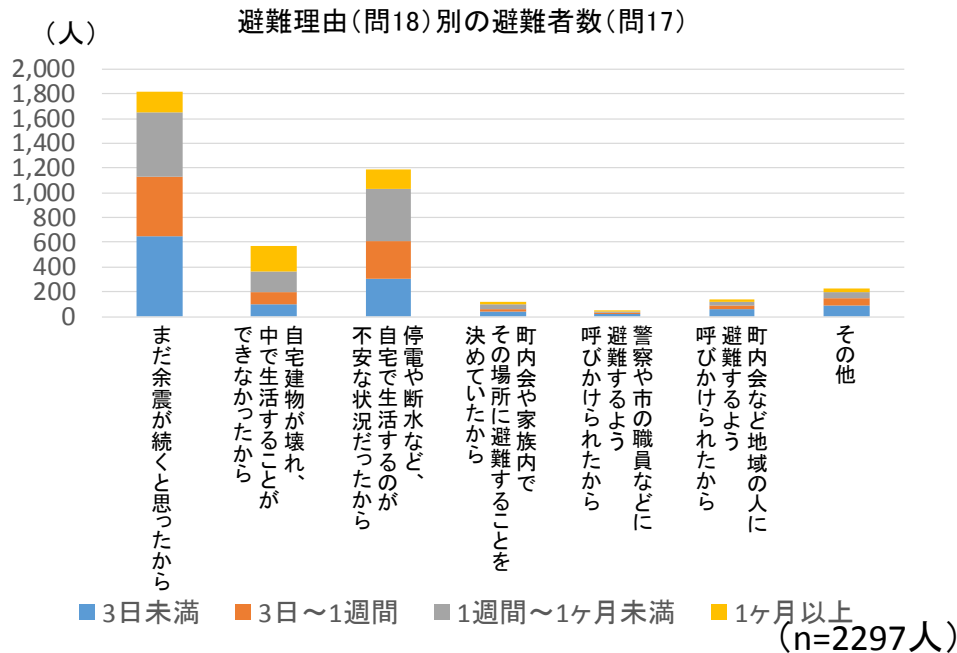


- ・ 全回答者の3割弱にあたる869人が、自宅被害やインフラ被害がなかったが避難した。
- ・ そのうち、約8割は避難期間が1週間以内であった。

平成29年7月3日 資料に誤りがあったため修正

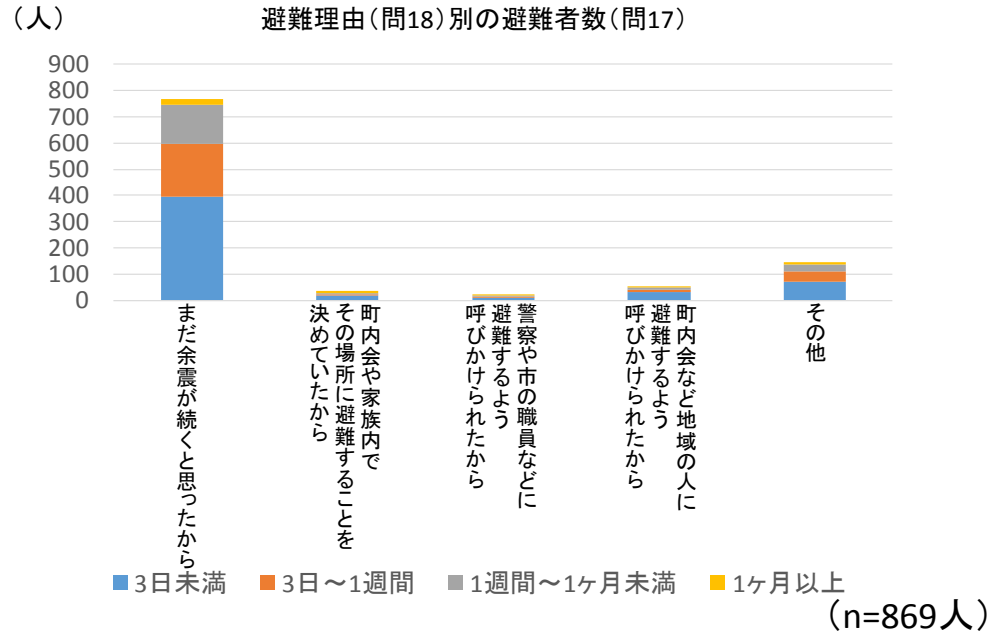
# 熊本地震被災者アンケート結果の分析(2) 避難理由と避難期間の関係

(a) 全避難者を対象とした場合 (複数回答)



- 避難理由は、「まだ余震が続くと思ったから」、「停電や断水など、自宅で生活するのが不安な状況だったから」が多く、それぞれ全避難者(2297人)の約8割、約5割を占める。これらの理由で避難した人について、避難期間が1週間以内の人の割合は、それぞれ約6割、約5割である。

(b) 全避難者から、「自宅建物が壊れ、中で生活することができなかったから」「停電や断水など、自宅で生活するのが不安な状況だったから」と回答した人を除いた場合 (複数回答)



- 自宅被害やインフラ被害がなかった避難者(\*) (869人)のうち、約9割(768人)が、「まだ余震が続くと思ったから」という理由で避難した。「まだ余震が続くと思ったから」という理由で避難した人のうち、避難期間が3日未満の人が約5割、1週間以内の人が約8割である。

(\*)「自宅被害やインフラ被害がなかった避難者」とは、全避難者から、「自宅建物が壊れ、中で生活することができなかったから」人と「停電や断水など、自宅で生活するのが不安な状況だったから」人を除いた避難者を表す。

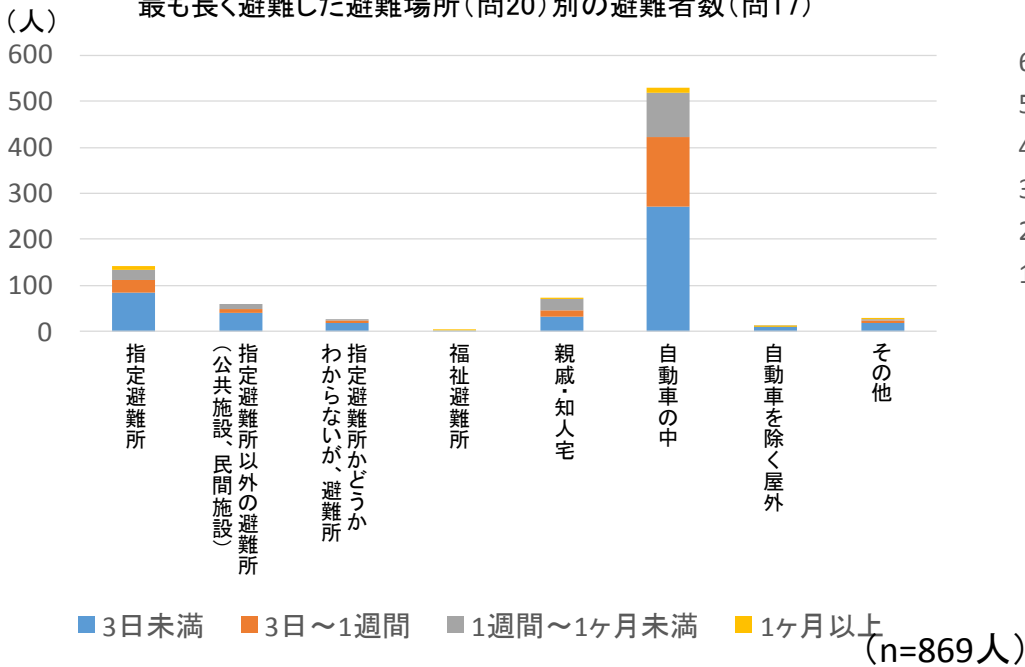
# 熊本地震被災者アンケート結果の分析(3) 避難場所、避難をやめるきっかけと避難期間の関係

(対象者)

全避難者から、「自宅建物が壊れ、中で生活することができなかったから」「停電や断水など、自宅で生活するのが不安な状況だったから」と回答した人を除いた避難者869人

(a) 避難場所別の避難期間 (複数回答)

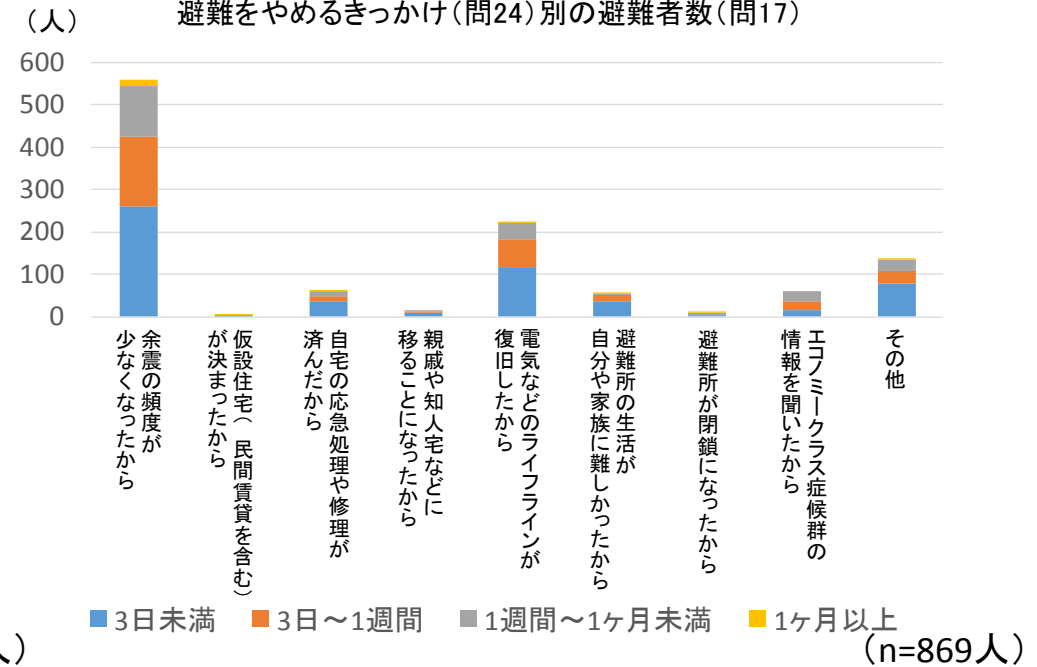
最も長く避難した避難場所(問20)別の避難者数(問17)



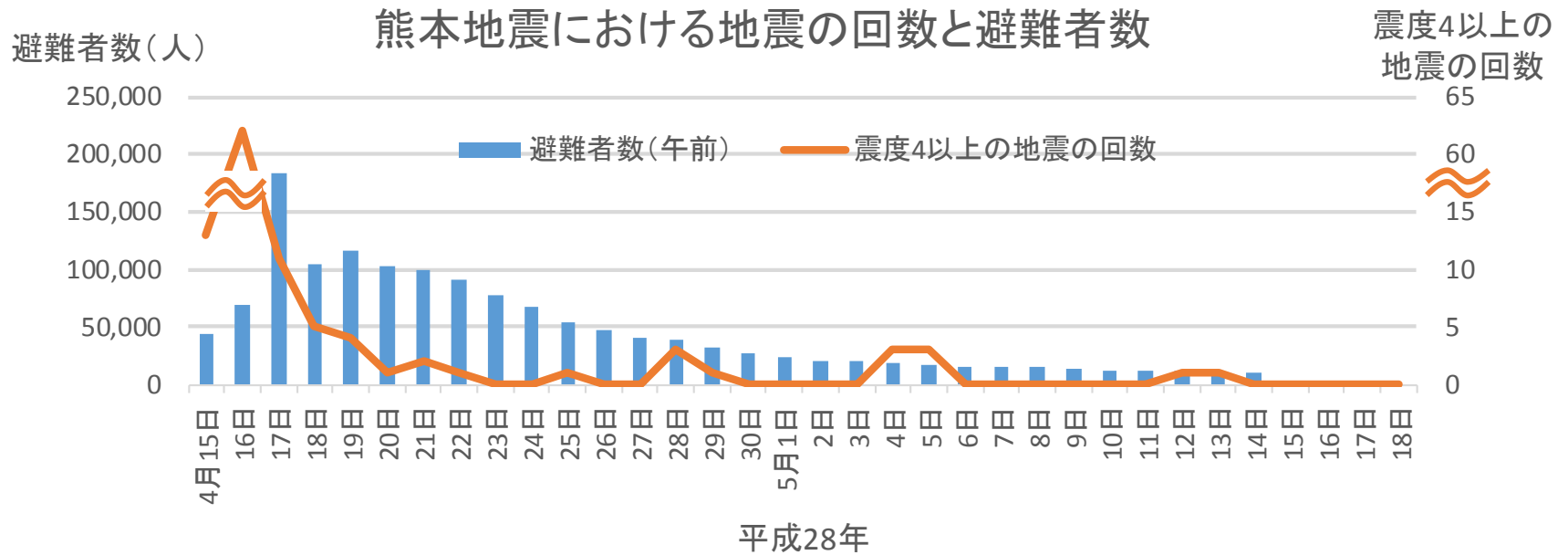
・ 自宅被害やインフラ被害がなかった避難者(869人)のうち、約6割(528人)が「自動車の中」に、最も長く避難した。

(b) 避難をやめるきっかけ別の避難期間 (複数回答)

避難をやめるきっかけ(問24)別の避難者数(問17)



・ 自宅被害やインフラ被害がなかった避難者(869人)のうち、約6割(559人)が、「余震の頻度が少なくなったから」避難をやめた、と回答した。



(出典)避難者数:政府現地対策本部会議・熊本県災害対策本部会議(平成28年5月18日)、地震回数:気象庁HP

- ・熊本地震の避難者数は、4月17日（4/16の本震の翌日。4/14の前震から数えて4日目）が18万3882人で最大となった。地震発生から8日後の4月22日には、避難者数は90,970人となり、ピークの半数以下となった。
- ・熊本地震発生から1週間後（4月21日）以降では、震度4以上の地震回数は、震度4以上の地震回数のピーク（4月16日の62回）から激減している。

※ 上記グラフの避難者数には、自宅が被害を受けた人、停電や断水のようにライフラインの被害を受けた人を含む

- 自宅被害がなく、ライフライン被害もない人の場合は、多くは1週間以内の避難であった。
- 「余震が続くと思ったから」という理由で避難した人が大多数であった。
  - 「余震が続くから」と思って避難した人の避難期間は、「3日未満」が約5割、「1週間以内」が約8割
- 自宅に戻る理由は、「余震の頻度が少なかったから」と回答した人が多かった。
- なお、熊本地震では、余震が増えると避難者が増加し、余震が減少すると避難者が減少する傾向があった。この傾向は、熊本地震被災者アンケート結果と整合している。